設計・計画部門

佐藤達保（さとう たつほ）

生年月日　1980年７月大阪府生まれ
最終学歴　2006年神戸大学大学院
　　自然科学研究科建築学
　　専攻修士課程修了
業務経歴　2006年㈱竹中工務店入社
　　2007年～大阪本店設計部

●担当した主なプロジェクト
2007年　白鶴酒造大石工場新充填棟
2009年　日本臓器製薬小野工場改修
2011年　塩野義製薬医薬研究
　　センターSPRC4
2013年　フジッコ鳴尾工場４期棟
2015年　サントリーワールド
　　リサーチセンター

■青年技術者のことば

設計の本質とは、人の様々な生活に望ましい最適な環境を創りだす工夫にあると思う。それは様々な与条件や個性の上に複数の解が成り立つユニークなものである。その中で私が特に大事にしたいのは、最終的に練り上げた解をカタチにする過程で新たな可能性を見い出し、未知の世界を切り開いてゆこうとする姿勢である。ゆえに設計者として、最初から期待値の深さに底を見ないように努めている。限界は条件の中にあり、建築の中にはない。10年間、運よく大小様々な仕事に関わることができ、すべてのプロジェクトには底知れない可能性があることを実感してきた。深い場所まで潜る体力と度胸をもって、粘り強く考え、手を動かし、人と協力し合うという当たり前のことを、長いプロセスの中で持続することによって、結果として想像以上の建築が現実のものとなり、多くの人や社会と感動を共有できたとき、言い知れないやりがいを感じる。その喜びの深さにも、まだまだ到達していない深い領域があるはずだ。建築は、乗り超えた条件の高さではなく、ソノモノでのみ語られる。人とその生活において基本的存在として残る建築が、社会にもたらす潤いの深さを追求し、設計を続けていきたい。

■すいせん者

藤原則行
㈱竹中工務店 大阪本店設計部

塩野義製薬医薬研究センターSPRC4（2011）「知的創造性を高める環境配慮型研究所」

拠点の集約化による研究効率の向上と新薬開発サイクルの短期化を狙って計画された医薬研究所。敷地における最大平面×最小断面のボリュームとし、施設の中心に吹抜けを有する魅力ある執務域を配置することで研究者が必然的に人と出会う確率を高め、自然にコミュニケーションを図れるよう計画した。

フジッコ鳴尾工場４期棟（2013）「国民的お惣菜の旗艦工場」

お惣菜食品加工工場。正面ファサードにトラックバースを配置し、跳ね出し長さ９ｍの大庇を設けて、建築主の旗艦工場に相応しいダイナミックな外観とした。吹抜をダイアゴナルに横断する階段をアクセントにした、小さくも開放的なエントランスホールや、生産エリア全体を見渡せる見学ルームなどによるメリハリのある意匠とした。

サントリーワールドリサーチセンター（2015）「人と自然と響きあう研究所」

社内外の「知の交流」を積極的に促進しながら、新しい価値を創出することを目指した研究所。地層のように幾重にも重なる水・緑・土を外観のコンセプトとし、前面にオープンランドスケープを設けて外部との交流を誘導した。内部には研究者同士の接点を増やすオープンラボ、スキップフロアや吹抜けを立体的に挿入して、発散と集中を促す流動的で心地よいワークプレイスを計画した。